

(1) 3歳児事例

3歳児 6月16日～6月17日 「泥団子作ってんの」

八日市屋 真唯

探究心：物事の仕組みや性質，原因を知りたいと思う気持ち

6月16日

幼児の姿

①3A児が、1人で黙々と砂場で団子を作っていたので教師は、3A児に声を掛けた。

教師：「3A児くん何してるの？」

3A児：「泥団子作ってんの」

教師：「いいね、先生もつくってみるわ」

3A児：「いいよ、あのね、こんなんやよ、触ってみ」

教師：「えっ、固いね」

3A児：「そうや、水つけるんやよ」

教師：「水つけると固くなるの？」

3A児：「そう」

②3A児の目は、次第にキラキラしていった。まるで、すごいものを見つけた時のように勢いよく話していて、教師に聞いてほしい気持ちがよく伝わってくる。

教師：「3A児くんみたいに固くしたいし、水つけてみるね。これくらい？（片手で水をすくって3A児に見せる）」

③3A児：「うーん、もうちょっとや」

教師：「じゃ、これくらい？（さっきよりも多く片手に水をすくう）」

④3A児：「そう、それくらい」

3A児が見守るなか、教師は団子に水をつけた。

教師：「うわ、本当に固まった！」

3A児：「そう、あとね、もっかい（もう1回）砂をつけて、また、水をつけるの。そうすると、僕みたいになる」

教師：「そうなんや、やってみるね」

教師と3A児は、それぞれに作った団子を、その後も同じ工程を繰り返して作っていった。

教師：「本当に、どんどん固くなっていくね」

3A児：「ねえ、みて」

3A児は、出来た団子を教師に見せてくれた。少しずつ、大きくなっていった3A児の団子は、3A児がやっと握れるほどの大きさになっていた。しかし、3A児の作った団子はその後すぐに割れてしまい口をあぐりと開けて唾然としていた。

探究心

①1つの団子を何度も握りながら時間をかけて丁寧に作っている

繰り返し遊ぶ

探究心

②団子を作っていく過程で、水をつけると固くなっていくことに気付く

発見

教師の援助

3A児の発見や気づきに共感したいと思い、教師も一緒に同じものを作る

探究心

③④団子を作っていく過程で、水をつけると固くなっていくことに気づき、水の量にもこだわりながら団子作りをしている

発見

6月17日

幼児の姿

①3A児は、2日目も同じ場所で黙々と団子作りをしていた。その姿を見て教師は、3A児に声を掛けた。

教師：「3A児くん、今日も泥団子作ってるの？」

3A児：「ほら、みて！」

②手には、1日目よりも大きい団子がのっていた。3A児の表情はとても得意げだった。

教師：「うわー！！なに、なんでそんなに大きいの？」

③3A児：「あのね、これ入れたの」

3A児は、2センチ程の小さな石を見せてくれた。

教師：「へえ、これ入れるとそんなに大きくなるの？」

3A児：「そう、これ入れると、大きくなって、割れない。昨日割れちゃったから」

石を入れた団子に1日目と同じように水をかけて、その上からまた砂をかぶせて少しずつ大きくしている。その後も、石を入れた団子を3つ作り、とても満足そうに教師に見せに来てくれた。

探究心

①② 1つの団子を何度も握りながら時間をかけて丁寧に作っている

繰り返し遊ぶ

教師の援助

3A児の発見や気づきに共感する

探究心

③昨日崩れてしまった団子を、崩れないもっと丈夫な団子にするために石を入れてみる

試行

自己主張：相手に対して自分の気持ちを説明したり表現したりすること

幼児の姿

3B児は3A児が見つけた黄色い小さな石を欲しがっていた。

3B児：「これちょうだい、ねえちょうだいよ」

①3A児：「ダメ、これ僕の」

3B児：「ちょうだいよ」

②3A児：「これ僕のだよ」

自分の思いがなかなか通らない状況に3B児は、3A児が持っていた石を無理やり取ろうとする。力づくで持っている石をとろうとする姿が見られたので、怪我につながるのではないかと思ひ、教師が仲立ちに入った。

教師：「どうしたの？」

3B児：「あの、これ僕の石なんだけど、3A児くん持ってて、欲しいんだよ」

教師：「3A児くん、これ誰見つけたの？」

③3B児：「僕だよ、僕が見つけて、そこで拾ったの」

教師：「これ、3A児くん見つけたんだって、3B児くん欲しかったの？」

3B児：「そう、3A児くん見つけたけど、でも、僕も欲しいの」

教師：「そうか、黄色くて素敵な石だもんね。3B児くんも欲しくなったんだね。3A児くん、3B児くんが石貸してほしいみたいなんだけど、貸してあげられそう？」

④3A児：「えー、だめ。見つけたから、今つかうし」

教師：「そうだよね、分かったよ。じゃ、3B児くん、一緒に同じような石探してみよう。」

自己主張

①石が欲しいという思いを相手に訴える

欲求

自己主張

②自分の物だということを訴える

欲求

(補足) 教師は、3A児が石を見つけた当初から近くで一連の流れを見守っていたため、3B児が嘘をついている事を分かっていたが、3A児の思いを大事にしたいと思ひ、3A児に誰が見つけたかを確認した

自己主張

③自分が見つけたことを教師に訴え、自分の物だということをアピールする

意思表示

(補足) 自分の思いを主張してなんとか石を手に入れたい3B児に対し、3A児は3B児ほど自分の思いを表に出す幼児ではない。しかし、自分で見つけた大事な石を使って遊びたいという3A児の思いを尊重したいと思ひ、3A児に断られることを予測したうえで、「貸してあげられるか」確認をした

自己主張

④自分の物だということを訴え、何とか維持しようとする

欲求

教師は、3B児と一緒に石探しを始めた。いろいろな石を見つけては、3B児に提案するが、納得いく石が見つからない。

3B児：「うーん、やっぱり、3A児くんと同じ石がいいんだよ」

教師：「そうか、同じ石かぁ・・・なかなか見つからないね」

3B児：「でも、3A児くんと同じ石がいい」

その後も、諦められない3B児は、3A児の姿を追ったり、近くにいた教師に、自分の思いを話したりし、なんとか3A児の持っている石が手に入らないかと、いろいろなところに働きかけていた。

#### 教師の援助

3B児の諦めきれない思いを受け止め、同じような石と一緒に探しに行く

自己抑制：自分の気持ちを抑えて行動すること

幼児の姿

3A児は、黄色い小さな石を見つけ、3A児が見つけた石を3B児が欲しがっていた。

3B児：「これちょうだい、ねえちょうだいよ」

3A児：「ダメ、これぼくの」

3B児：「ちょうだいよ」

3A児：「これぼくのだよ」

自分の思いがなかなか通らない状況に3B児は、3A児が持っていた石を無理やり取ろうとする。力づくで持っている石をとろうとする姿が見られたので、怪我につながるのではないかと思ひ、教師が仲立ちに入った。

教師：「どうしたの？」

①3B児：「あの、これ僕の石なんだけど、3A児くん持ってて、欲しいんだよ」

教師：「3A児くん、これ誰見つけたの？」

3A児：「僕だよ、ぼくがみつけて、そこで拾ったの」

教師：「これ、3A児くん見つけたんだって、3B児くんほしかったの？」

②3B児：「そう、3A児くん見つけたけど、でも、僕も欲しいの」

教師：「そうか、黄色くて素敵な石だもんね。3B児くんも欲しくなったんだね。3A児くん、3B児くんが石貸してほしいみたいなんだけど、貸してあげられそう？」

3A児：「えー、だめ。見つけたから、今つかうし」

教師：「そうだよね、分かったよ。じゃ、3B児くん、一緒に同じような石探してみよう。」

**自己抑制**

①3B児は、本当は、自分の石ではないことを分かっているが、どうしても石が欲しいので、「僕の石なんだ」と嘘をついてみる。しかし、言葉の最後には「ほしいんだ」と本音を言葉にする

葛藤

(補足) 教師は、3A児が石を見つけた当初から近くで一連の流れを見守っていたため、3B児が嘘をついている事を分かっていたが、3A児の思いを大事にしたいと思ひ、3A児に誰が見つけたかを確認した

**自己抑制**

②嘘をついてまで、どうしても欲しい石だったが、3B児が自分で見つけた石ではないという事実を認める

事実の受け入れ

**教師の援助**

3B児の諦めきれない思いを受け止め、同じような石を一緒に探しに行く

③3B児は、教師と一緒に石探しを始めた。いろいろな石を見つけては、3B児に提案するが、納得いく石が見つからない。

3B児：「うーん、やっぱり、3A児くんと同じ石がいいんだよ」

教師：「そうか、同じ石かぁ・・・なかなか見つからないね」

3B児：「でも、3A児くんと同じ石がいい」

その後も、諦められない3B児は、3A児の姿を追ったり、近くにいた教師に、自分の思いを話したりし、なんとか3A児の持っている石が手に入らないかと、いろいろなところに働きかけていた。

#### 自己抑制

③教師の誘いを受け入れて、3B児は、教師と一緒に石を探しに向った

気持ちの切り替え